浜村地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年８月５日（火）　１９：００～２０：１０
２　会　場　気高町中央公民館
３　出席者　地元出席者　　２１名
市側出席者　　１６名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、大田経済観光部長、久野新市域振興監、高橋秘書課長
＜気高町総合支所＞鈴木支所長、橋本副支所長、村上市民福祉課長、山本産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　浜村小学校プール横道路の改善について

＜地域課題＞
道幅が狭く、見通しも悪い。小学校が避難場所に指定されているが、災害時に迅速な集合や支援物資の供給に支障をきたす。拡幅をしていただきたい。

＜担当部局の所見等＞
【教育委員会】
この道路は、通常時の保育園保護者の送迎及び小学校・園職員の通行においても支障をきたしていると伺っております。
このことから、道路の拡幅改良は必要と考えますが、その実施については、工事の方法や財源も含めて、今後検討してまいります。

（教育委員会事務局長）
ご要望の箇所はスクリーンで赤く示している部分で、学校の施設内道路です。プールの所の道幅は、約７ｍや５ｍ、狭い所では３．９ｍのところもあります。

災害時には、学校の門やフェンスを切って学校内に支援物資を入れるような体制を作る方法もありますが、今回は、この道路が保育園の送迎や学校職員の通勤経路になっていて時間帯によっては自動車のすれ違いが多くなり、自動車同士の接触事故や脱輪などもあるということで整備を要望されるに至ったとお聞きしています。
道路の拡幅は必要だと思います。その実施にあたっては、予算や施工方法などを含めて今後検討させていただきたいと思います。市の独自の予算だけではなかなか財源確保が難

しいため、他の財源も活用しながら整備方針を考えていきたいと思います。

（地元意見）

今朝は、午前７時半から９時３０分の間に１６８台の自動車が通り、そのうちすれ違いが１９回ありました。夕方は、１５時５５分から１８時１５分までに１５０台が通り、すれ違いが１５回ありました。北側に空き地があるので、１ｍほど延ばしてもらえたらと思います。市の土地だから簡単にできるのではないかと思いますが、具体的にいつ頃できるのかを教えていただきたいです。

ここを通るときには大変な神経を使います。逆に言うと、そういう神経を使っているから事故も起きていなかったと思います。

また、プールの所が直角になっていて全然見えないため、削ってもらわないと危険です。工事によって道路が少しくらいグラウンドに食い込んでも大丈夫ですし、放課後児童クラブの北側にも十分土地があります。もう少し具体的に時期についての回答をお願いします。

（教育委員会事務局長）

幼稚園が閉園になって放課後児童クラブとして使用するための整備をした際に、併せて多少拡幅した部分もありますが、全体はできなかったようです。

拡幅を行うことになれば、工事方法について地元の皆様とご相談させていただきます。

（深澤市長）

入り口部分は以前少し拡幅しましたが、ここの形状が良くないことは私も当時から気になっていました。先ほども改めて現地を確認してきました。道路としての形状、線形が悪いですね。狭いだけではなくプールの所も直角ですし、グラウンドのフェンスが真っすぐになっている所ではぶつかったような形跡も見受けられました。これは危険だと思います。何とか対応しなければならないとは思いますが、有利な財源がなかなか見当たらないということと、道路ではなく通路だということで、有利な財源が活用できないという事情もあります。現在のところ、来年度耐震改修する計画があります。このままでは危険だということは重々認識していますので、そういった耐震改修の工事の一環として、一緒にここの対応ができないか検討させていただきたいと思います。

（地元意見）

耐震改修が決まっているために、今、小学校で出ている他のいろいろな問題についても全てその時に回そうということで、市の教育委員会で却下されているという話を聞いています。今、問題が起こっていることに対して真剣に取り組んでいただきたいです。

中学校については全面改築ということで決まり、今は設計段階に入って来年から工事に取りかかるということだったと思いますが、浜村小学校は、改築はするがやり方については平成２９年までに結論を出すという話だったように記憶しています。それまで浜村小学校は何もできず要望しても何も通らないのでしょうか。耐震改修の時に一緒にするからという一言で終わってしまうことがないようにお願いしたいです。

（教育委員会事務局長）

平成２９年までに結論を出すとの話があったとのことですが、耐震改修について言えば、全市的に２７年度までには施設の耐震改修について着手するというのが今のスケジュールです。浜村小学校においても、本年度設計をして２７年度に耐震工事を行います。これに併せて、プール横の道路についても検討していくということです。他の学校と同じように、浜村小学校の耐震についても２７年度までにはできます。気高中学校についても、昨年度いろいろ議論をいただきましたが、現在は設計をしており来年度から順次整備していく予定です。

実は昨年、気高地域の４つの小学校について校区審議の部分でご説明させていただいたことがあります。学校によって児童数の多い少ないは違いますし、浜村小学校の場合はあまり変わらないと捉えていますが、少子化の影響により気高町の小学校は学校規模が小さくなっています。そこで、それぞれの学校について、今後どういう形が子どもたちの教育にとって良いのかということを地域で組織をつくって考えていただき、そのご意見を教育委員会と市、校区審議会で真摯に受け止めさせていただきながら今後の形をつくっていく、というご説明をさせていただきました。ただ、これについても平成２９年までに方向性を定めるというご説明はしていません。

小学校について何かご相談があれば、教育委員会気高町分室や教育委員会事務局にご相談いただければと思いますし、一番は学校の校長先生なり教頭先生に実情やお気持ちを話していただくというのも方法だと思います。

２　浜村川、勝見川、永江川の浚渫、伐開について

＜地域課題＞

出水期を迎え、河川内に草が茂っており、水の流れが心配である。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

河川を管理する鳥取県土整備事務所に確認したところ、永江川は毎年伐開等を行っており、浜村川、勝見川については、木の繁茂等によって川の流れが阻害される恐れがあると判断される状況等になれば、適宜必要な対応を行うとのことです。

本市としましては、状況に応じて適切に浚渫・伐開が行われるよう、鳥取県に対し河川パトロールの強化等を継続して要望いたします。

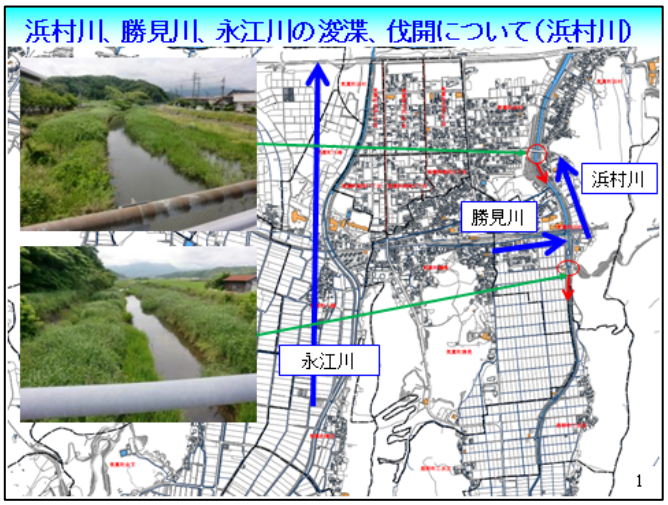
（都市整備部長）

浜村川、勝見川、永江川はいずれも鳥取県が管理する二級河川ですので、鳥取県土整備事務所に確認しました。浜村川、勝見川については、木の繁茂等によって川の流れが阻害されるおそれがあると判断される状況等になれば、適宜必要な対応を行うとのことです。

なお、浜村川については平成２５年度に鹿野町岡木付近の河床掘削を、勝見川については一部伐開を実施されたとのことです。

また、永江川については毎年伐開等を行っており、今年度は国道９号上流付近から八幡橋付近を実施したとのことです。

本市としては、状況に応じて適切に浚渫、伐開が行われるよう、鳥取県に対して河川パトロールの強化等を継続して要望したいと思います。



（地元意見）

浜村川は合併以来１０年来放っていたので、２ｍから３ｍの葦がたくさん生えてしまいました。昨年、「浜村川愛護会」と「浜村川をきれいにする会」の２団体を立ち上げ、昨年から今年にかけて県の協働型ボランティア制度を利用して鉄道から９号線までの河川敷をきれいにしましたが、川の中には背丈もあるような葦が生えて、いくら河川敷をきれいにしても川が汚いために、きれいさが半減していると思います。

（都市整備部長）

県に伝えたいと思います。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

新泉に、浜村川と新永江川の間を横に走っている旧永江川があります。ここは県から委託されて、お金をいただきながら年に２回のボランティア清掃をして管理しています。

旧永江川沿いに、今は廃業されて老朽化が進んでいる元旅館がありますが、ここの屋根の鉄板やガラスなどが川の中に落ちてきています。今年の掃除の時に県に相談したら、そこの区域は危険だから清掃しなくていいとのことで、清掃はしませんでした。

この建物は、いろんな人がガラスを割って入ったり２階の窓が割られたりするなど、どんどん危ない状態になっています。建物に行くための橋も危ないので、危険防止で入れないようにするなどの対策を練らないといけないと思います。その建物の前が子どもたちの通学の集合場所にもなっているので、注意しても子どもが中に入ってしまうかもしれません。

建物の撤去は無理でも、立入禁止措置をとってほしいと思います。

（深澤市長）

老朽化していても個人の所有物であれば市が勝手に対応するのは困難ですので、再度現地を確認して、まずは所有者に要請をしていかなければならないと思います。

（地元意見）
そういった場合に、市から建物の所有者に撤去の指導ができるような条例ができたと聞いていますが、どうなのでしょうか。

（都市整備部長）
平成２６年４月１日から､｢鳥取市空き家等の適正管理に関する条例｣を施行しています。その中で、所有者への指導として、危険な家屋等がある場合には所有者の方で対応をしていただくようお願いをする文書を発送するようにしています。
条例制定前の平成２５年度に、自治会に協力をいただいて市内の空き家を調べていただきました。その中で浜村地区から該当の空き家の報告をいただいていれば、文書で対応をお願いしています。

（支所産業建設課長）
問題の空き家については、現状の写真を所有者に郵送して対応をお願いしていますが、その後返事もなくそのままの状態になっています。

（地元意見）
この建物ともう１つ別の建物が、鳥取市内の中学生たちのミステリースポットのような場所になっているようです。卒業記念に肝試しをしてトラブルになり警察を呼んだこともあります。ガラスなどが割れているのでけがも心配だし、どこか落ちてきてもいけないので、せめて立ち入れないようにできればと思います。一番心配なのは、たばこなどの火の不始末です。

（深澤市長）
昨年、総合支所から所有者に連絡を取らせていただいているようですが、新しい条例を制定、施行しましたので、もう少し具体的なお願いや対応はできるようになったと思います。改めてお願いなり要請をさせていただきたいと思います。

（地元意見）
５０年後に人口１億人を維持という有識者による方針が出ているのですが、子育ての対策など全ての対策をした上でなおかつ一番問題なのは、昔と違って男女を引き合わせる仲人さんが皆無に近いという現状です。いくら幼稚園を建てて金をあげると言っても、結婚してもらえなければだめです。
市内のあるまちづくり協議会さんが、仲人さんの経験者を集めて婚活に取り組んでおられますが、これは画期的な取り組みではないかと思います。現在６１の地区公民館がありますが、このような取り組みを各館各地域に少しずつ広げながらいくというのも一つの方法ではないでしょうか。個人情報の問題もあり難しいかもしれませんが、個人的に勧誘して会員になってもらえばいいと思います。鳥取市でこういう取り組みを始めて中部地区に広げ、さらに西部地区に広げるなど、ネットワークを広げて結婚を促進していけば良いと

思います。結婚は個人の自由だと言っていては何もできません。個人情報で制約があるから難しいと言っていては１億人の人口を確保できません。このまちづくり協議会さんの取り組みを参考にしながら検討してください。仲人さんがいなければ、婚活も絵に描いた餅になってしまうと思います。

婚活で一番困るのは、婚活と言うと独身者は恥ずかしくて来ないだろうということです。結婚相談所は事業として成り立ちません。成婚１件について、１０万円程度しか入りません。１０件でたった１００万円です。中には、付き合い始めた２人が金を払わずにうまく退会してしまう場合もあります。会社組織としても成り立ちません。また、ボランティアで仲人をしろと言われても無理な話です。行政がある程度基本的な部分を保証して、あとは成果配分として支払うといった方法でなければ、受け手はまずいないと思います。

婚活という言葉は恥ずかしいから、ごまかして何となく若い者を集めるという、そういう方法では何にもなりません。

（企画推進部長）

平成２２年度から「婚活」という言葉がかなり大きなキーワードになってきて、行政も出会いの場を作っていこうと、経済団体などさまざまな団体に働きかけをして市の委託事業という形で実施してきており、それなりにカップルは成立しています。ただ、その後の進展状況については、個人情報という観点もあり調査できていません。

婚活に関する事業については、６月議会でも質問がありました。出会いの場をつくる事業というのは、公民館やまちづくり協議会で十分行っていただける事業です。８月８日の公民館長会で具体的な事例の紹介をさせていただく予定にしており、地域での仲人の育成やボランティアの一助にしていければと考えているところです。

（地元意見）

気高町には、子育てしながら働ける環境が正直言って少ないです。７００円の時給をもらうために、身支度をして運転し湖山の辺りでパート勤務をした後、再び１時間かけて帰ってくる、これでは１日実働５時間、簡単に言えば３，５００円しか稼げていません。とりあえずはパート勤務でも、町内で働ける環境を本気で考えていかないと、気高町はただのベッドタウンになってしまいます。

（深澤市長）

少子高齢化にどう対応していくのかというのは、鳥取市だけではなく全国の自治体の重要課題であり、喫緊の課題だと思います。多くの自治体が２０４０年にはなくなってしまう危険に直面するという、非常にショッキングな報告もありました。この少子高齢化に対応していくために、若い方に鳥取に定住をしていただく、子育てがしやすい環境を整えていくなど、さまざまな課題があると思います。こういった課題に鳥取市も全力で取り組んでいきたいと思っています。

現在、第３次の経済再生・雇用創造戦略を作っており、平成２６年度から４年間で５千人以上の雇用をつくり出していこうと計画しています。これにより、企業誘致や既存の地場産業の底上げあるいは支援をして仕事をつくり出していくといった、雇用の創出、確保、

拡大をしようとしています。この西地域については、平成２０年代には山陰道西道路が供用開始になる予定もありますので、これをチャンスと考え、今後、企業誘致や工場誘致の可能性がある土地も確認し、地域経済の活性化や企業誘致などについて全市域的に計画を進めていきたいと思っているところです。

（地元意見）

温泉を集中管理する維持費が大変だという話は至るところから聞いていますが、実際には、温泉を使った療養所やサテライト予備校をしたいと考えている方が気高町をしっかり調査されています。海まで５分、山まで１０分、駅前に温泉がある、都会にこんな町はどこにもありません。温泉について、もう一度本気になって考えていただきたいです。温泉を維持管理するのが本当にそんなに大変なのか、維持費と収支を洗い出して公表していただきたいと思います。必ずや使えるものになる、使えなければあきらめる、それぐらいのつもりで何とか取り組んでいただけないでしょうか。

（深澤市長）

平成２０年代には、西道路も整備が着実に進んでいきます。道の駅の構想も、地元の西商工会の皆様を中心に今議論をされているところです。こういった交通インフラの整備を活かして、いかに観光客の誘客を図っていくかということが鳥取市の大きな課題の一つでもありますので、皆様と一緒になって取り組んでいきたいと思います。

温泉の集中管理等と収支についてですが、この浜村温泉をこれからいかに利活用していくかということは重要な課題だと思っていますので、そのあたりも引き続き取り組んでいきたいと思います。

（地元意見）

若い人が戻ってこられない理由の一つに、住宅ローンの問題があります。問題はやはり測量です。残念ながら測量が全くできていません。駅の北側、南側を含めて全てそうです。住宅ローンは、測量してある土地でなければほぼローンが組めません。これが原因で気高町に帰りたくても帰れない人達がかなりいます。地権者全員の同意を得るのが難しいようなら、現況の測量だけでもできれば家が建つ環境が整います。若い人間も帰ってきやすくなります。

（深澤市長）

地籍調査等について触れておられるのでしょうか。境界が確定しないとか、実面積がはっきりしないとか、そういう実態があるからというご趣旨のお話でしょうか。

（地元意見）

地籍調査はどちらかというと、いわゆる山合いとか農地中心がメインで進んでいます。現在、駅前や駅の南側の辺り一帯は、全く機能しなくなっています。不要なものを相続したという感覚になっています。建物を壊すにもお金がかかるので結局放っておくことになり、代が変わるほど手がつけられなくなります。これを公の力で何とかしてくれというわ

けではありませんが、駅前に関しては何かしないと波及効果が見込めませんから、どこか１か所をモデルとして手をつけていただきたいのです。

（深澤市長）
地籍調査は、山林や農地だけではなく宅地も対象になっており、最終的には全筆をしっかり測量して境界を確定し、きちんと実面積を出していくという作業です。ただ、物件の数が現在５０万筆程度ありますので、それぞれ所有者の方に境界を確認していただいて確定して測量するということはなかなかすぐにはできませんが、全市的に取り組んで進めているところです。

（地元意見）
この町には技術がたくさんあります。例えば砂のモアイ像はまさに技術で、しかも特許です。こういう部分を埋もれさせているのはもったいないと思います。使えそうなもの、または特許を活かせそうなものや人について、ビジネスコンペをして補助金を投下してください。レベルの高い補助金でビジネスコンペをやっていただければ、必ずこの町に新しい産業が起きてくると私は信じています。
また、浜村に限らず気高町には、面積が広い、あるいは建物が使える状態なのに使われていない遊休地や遊休施設が、本当にたくさんあります。気高町に限らず青谷町にはさらにたくさんあります。わざわざ新しいものを建てなくても十分使っていけます。徹底した検証をお願いします。

（深澤市長）
今、中心市街地の方ではリノベーションの事業をしています。これは、既存の不動産をもう少し補修し利活用できるような状況にして資産価値を高めていくという取り組みです。そういったことが他の地域でもできないか、これから研究してみたいと思います。

（地元意見）
学校の合併について市役所から納得いく説明があれば、私は従おうと思います。
ただ、学校が小さくなってしまったがために、子どもにさせたいスポーツがありません。あるいは、スポーツをしたいがために有力な才能ある子どもが県外に行ってしまいます。しかも中学の段階で留学をしていきます。こういう子どもを鳥取市内で集めれば、甲子園だろうが高校サッカーだろうが、そこそこのチームができる才能があると思います。これを学校の合併とリンクして話すのは少し強引かもしれませんが、学校の合併で活かせなくなることが結構あるということを真剣に考えた上で合併論を考えてください。

（深澤市長）
これにはいろいろな考え方や捉え方があると思います。スポーツの面でも教育の面でも、子どものためにどの程度の規模が良いのか、場合によっては合併した方が良いというお考えもあると思いますし、反対に人数が少なくなっても小学校や中学校は従前どおり尊重して残してほしいというお考えもあると思います。このことについては、まず十分な議論が

必要であり、それが前提だと思っていますので、引き続き学校のあり方や校区再編については議論を重ねていくべきだと考えています。

（地元意見）

合併して１０年を迎えました。合併する時には、村の公民館で「合併するから皆さん協力してください」と言われ、すごく明るい未来が来るような気がしていました。あの時は賛成しましたが、１０年が経ってこういう町になってしまいました。この懇談会も、チラシを配り防災無線で周知しているにも関わらず、参加者はたった２１名です。もう関心がないという意味です。もう西地域なんてどうでも良いという考えではないでしょうか。市長が代わり、この懇談会にあふれるぐらいの人が集まる、そういう雰囲気にならないといけないと思います。

合併で鳥取市がしたかったのは特例債で新庁舎を建てること、ただこれだけのように私達の地域は感じました。私達は総合支所で何でも手続きができますから、新しい庁舎に行く必要はありません。つまり新庁舎ができても、西地域の人達にとってはそれほど用事がある所ではありません。新庁舎を建てるために合併したような気がしてなりません。実態はこの懇談会も出席者が少なく、関心がありません。本当に情けない町になりました。

今日の資料に市長の公約が書いてあります。市長、しっかり頑張ってください。

（深澤市長）

ありがとうございました。しっかり頑張ります。明るい未来が来るような、そういった期待をしていらっしゃったということですが、鳥取市だけではなく全国的に、いま一つ先行きが見えないような世の中ではないかと思っています。

合併１０年、一つの節目の年です。もっと夢や希望が持て、自信や誇りが持てるような鳥取市であるべきですし、皆で力を合わせてそういう鳥取市にしていけると私は思っています。今こそ、多くの皆様の英知や力を結集し、まちづくりに取り組んでいかなければならないと思っています。

（地元意見）

私はこの気高町あるいは旧気高郡、浜村地区にいろいろな特区を設けていただくような運動をしたいと思っています。多くの規制はあると思いますが、皆さんと本気で協議すれば、できることとできないことが出てくると思います。

今日の懇談会について、これだけ告知して２１人しか参加者がいないことについては、我々の問題意識の低さもあると思いますが、もう一度役所の側から見て、本当に市民レベルのところの目線をしっかり確認していただければ､参加者もさらに増やせると思います。

６　市長あいさつ

限られた時間の中、多岐にわたりいろんなご意見、ご提言をいただきましたことに対し心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

参加人数が少ないのではないかというご意見もありましたが、それはそれでざっくばらんな意見交換をさせていただけたと私は感じています。もっと市民の目線でというご意見

もいただきました。今後も、市民の皆様の目線で政策を考え、丁寧な説明をしご理解をいただいて取り組みを進めていくということを心がけながら、市政の運営に当たらせていただきたいと思っているところです。

今日いただいたいろいろなご意見、ご提言については、今すぐにはなかなか取り組めないようなものもありますが、ご意見をしっかりと踏まえながら今後の市政に反映させていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。長時間ご議論いただきましたことに重ねて感謝し、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。